

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891500163		
法人名	社会福祉法人 弘道福祉会		
事業所名	洲本中川原グループホームラガール		
所在地	兵庫県洲本市中川原安坂988番地		
自己評価作成日	令和2年10月9日	評価結果市町村受理日	令和3年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和2年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症があってもその方がその人らしく過ごさせるよう日常生活のあり方を日々真剣に取り組んでいる。入居者様が出来る事・したい事を職員が支援し、本人の思いを汲み取り大切にしている。地域との関わりを重視し、アットホームな雰囲気の中で生活できる環境を大切にしています。新型コロナウイルスの影響で外出規制や面会規制で、レクリエーションや行事への参加が少なくなったが、施設内でできる行事を職員と一緒に楽しめる様にしました。また、入居者様に役割を持って頂き、食器拭きやテーブル拭き等の軽作業を日々の生活として過ごして頂けるように努めています。家族様が来所された際は、職員から先に挨拶を行い、接遇に心掛けています。新型コロナウイルス対策として、マスク・手洗い・消毒・体温チェック・ソーシャルディスタンス等を徹底し、対応を図っています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広く医療福祉事業を展開する法人が運営するグループホームである。総合福祉施設の中にあり、施設全体で地域交流・地域貢献に積極的に取り組んでいる。委員会体制が整備され、各種利用者アンケートを1年に計6回聞き取り調査で行い、利用者の意見や要望をサービスや運営に直接反映できるように取り組んでいる。グループホーム会議・フロア会議を定期的実施し、利用者個々の心身の状況を共有し、その人らしく自立した生活が継続できるよう個別支援に取り組んでいる。現在は、外出や地域交流が困難な時期であるが、事業所内での行事やレクリエーション・手作りパンの日や手作りおやつの日・家事への参加支援等、日常生活の中で楽しみや役割が感じられるように努めている。重度化対応として、特別養護老人ホームへの移行やグループホームでの看取り等、利用者・家族の意向に沿った支

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念・基本方針を玄関に掲示。グループホームは、心穏やかに過ごせる様、一人一人の思いや習慣を大切に、寄り添って共に笑顔で安心できる生き方への支援を重視し、実践につなげている。	法人の理念・基本方針をもとに、グループホームの基本方針を作成し、「地域に貢献できる施設・地域と共に歩める施設」として地域密着型サービスの意義をふまえている。玄関・各フロアのスタッフルームに掲示し、共有を図っている。通常は、新人研修、年度初めの研修、朝礼での唱和により、周知を図り理解を深めている。理念・基本方針をもとに、グループホームの年間目標を作成し、グループホーム会議で、中間評価・年度末評価を行い、理念・基本方針の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス発生前は、百歳体操・オレンジカフェなどの地域交流を行っていたが、感染対策で自粛している。今回、施設での文化祭については、地域の方々に感染対策を行った中で参加して頂く事が出来様になりました。	通常は、100歳体操・ひまわり会・オレンジカフェ・祭り・学校行事等、利用者と共に積極的に地域に出かけ交流している。施設に音楽・演芸などボランティアの来訪があり、施設の祭りには地域住民の参加が多数あり、交流の場となっている。(現在は休止)現在は毎月の、「ケアセンターだより」の発行、運営推進会議(書面会議含む)を通して、地域にホームの様子を伝えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの影響により、ひまわり会やオレンジカフェ等に参加を自粛している。地域の方と認知症について話し合う機会が少なくなったが、ケアセンター便りの送付や掲示と、運営推進会議等で理解して頂く様に努めている。		

洲本中川原グループホームラガール

自己 者 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響により、運営推進会議を自粛していた。運営推進会議の議事録を作成し、施設での取り組みを、市町村職員・民生委員・利用者家族・地域代表者・法人代表者等に配布し、活動内容を報告していた。9月からは、コロナウイルス感染対策を実施し、運営推進会議に参加して頂き、意見交換をしている。	利用者代表・家族代表・民生委員(知見者)・町内連合会長・町内会長・市職員・地域包括支援センター職員等を構成メンバーとし、小規模多機能事業所と合同で、2ヶ月に1回開催している。会議では、資料と「ケアセンター便り」を配布し、スライドを用いて、利用者の状況・事業所の活動状報告し、参加者と意見・情報交換している。議事録は、個人情報に配慮しつつ総合受付に設置し公開している。令和2年5月～7月は書面会議とし、9月は時間短縮して開催している。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者様の事故報告や困難事例を介護福祉課などへ相談し、解決策への助言や指導をして頂いている。入居者様の情報提供をして頂いたり、運営推進会議へ参加して頂き、助言や指導を頂いている。	運営推進会議(書面会議含む)に、市職員・地域包括支援センター 職員の参加があり、利用者・事業所の状況を伝え連携を図っている。報告や運営上の質問、困難事例に関する相談等があれば、書面にして市の担当窓口を訪ね、助言・指導を受けている。市から、新型コロナウイルス感染症に関する情報提供や通知を受け、職員にも回覧し感染予防に取り組んでいる。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム会議を毎月開催し、資料を配布と会議で話し合う機会を確保、身体拘束の勉強会を行っている。年に数回アンケート調査を実施し、アンケートについてグループホーム会議で協議している。	「身体拘束適正化の指針」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。施設合同の「身体拘束 廃止委員会」を2ヶ月に1回開催している。委員会の年間目標を設定し、委員会の中で目標に沿って適正化に向けた検討を行っている。議事録を回覧し、職員の周知を図っている。毎年、施設内研修の年間計画を立て、令和1年度は施設合同の研修会で「虐待防止・身体拘束廃止」研修を実施した。令和2年度は資料研修とし、身体拘束廃止委員会が担当して「ユマニチュード」についての資料研修を行った。また、グループホーム会議で、管理者が、「虐待防止・身体拘束廃止」についてのミニ研修を毎月行っている。	年間研修計画と実施状況が明確になる実施記録の工夫と、資料ファイルの整備が望まれます。

洲本中川原グループホームラガール

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム会議を毎月開催し、資料を配布と会議で話し合う機会を確保、虐待防止の勉強会を行い協議している。ストレスチェックを実施し、ストレスによる虐待の防止に努めている。アンケート調査を年1~2回実施し、虐待防止に努めている。	「高齢者虐待防止」について、上記「身体拘束廃止」と共に、施設内研修・グループホーム会議での研修を実施している。拘束廃止委員会が、毎年「虐待の芽チェックリスト」によるアンケートを実施し、部署ごとに集計して虐待防止に向け意識付けを行っている。毎年ストレスチェックを実施し、センター長・管理者が定期的にも随時にも個人面談を行い、法人もメンタルヘルス相談窓口を設置し相談しやすい環境作りを行っている。また、環境改善委員会で働きやすい職場環境づくりに取り組み、ストレス等が利用者のケアに影響を与えないように配慮している。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様で成年後見制度を活用している方の支援をしています。施設内研修・外部研修で学習したり、施設内で「成年後見制度について」の勉強会をしている。	成年後見制度など権利擁護に関する制度について、施設内研修で研修を実施している。成年後見制度を活用している利用者があり、後見人への金銭関係書類の提供・定期的な報告等、制度利用を支援している。今後も、制度利用の必要性や家族等から相談があれば、管理者が窓口となって関係機関につなぐ体制がある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には必ず、契約書を2部準備し、事業所・利用者との契約が不備なく行える様、契約内容の説明を承頂いている。入居者様の状態の変化に伴い、家族と今後の支援方法について協議を実施している。介護保険制度の改定等に伴う手続きや必要書類の作成がある場合、説明を行い同意書を頂いている。	通常は、入居希望があれば見学を勧め、料金表・パンフレット・ご案内等でサービス内容の概要を説明している。契約時には、契約書・重要事項説明書・指針・同意書に沿って、質問に答えながら丁寧な説明に努めている。重度化・看取り・リスク説明等については、別書面で説明し同意を得ている。契約内容改定時には、書面で説明し同意を得ている。契約終了時には、施設内の特別養護老人ホームも含め、心身状況に適した移行先の情報提供等、円滑な移行に向け支援している。	

洲本中川原グループホームラガール

自己 者	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、契約時に説明をし、面会時には日々の様子を伝えるようにしていたが、新型コロナウイルスの対応で、電話による報告を行っている。入居者様に年3回利用アンケートを行い、本人の意向を反映させている。	年3回入居者アンケート(サービス・接遇等について)、年2回給食アンケート、年1回環境改善委員会アンケートを、利用者に聞き取りで行い、利用者の意見・要望をサービスに反映できるように取り組んでいる。通常は、面会時・受診時・電話等で近況を報告し、意見・要望の把握に努めている。現在は、主に電話で報告し、家族の意見・要望の把握も電話で行っている。毎月発行する「ケアセンターガール便り」で生活や行事の様子等を伝え、希望者にはリモート面会を行い、意見や要望を表しやすいように努めている。把握した意見・要望は、申し送りノートやグループ会議で共有し対応している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のグループホーム会議で職員に案を提出してもらっている。入居者様がより良い生活が反映できる様、提案要件をグループホーム会議で協議している。年2回の人事考課で職員と面談し、意見や提案を聞く様にしてる。	偶数月にグループホーム会議・奇数月にフロア会議を行い、職員の意見・提案を、利用者のケア・介護計画・業務・運営などに反映できるように取り組んでいる。施設内の各種委員会に事業所から委員が出席し、意見・提案をサービスや運営に反映している。会議・委員会の内容は、議事録の回覧により周知を図っている。定期的には年2回、センター長と管理者が人事考課面談を行い、また、随時にも相談しやすい関係づくりに努め、個別に意見・提案を聴く機会も設けている。施設運営会議にセンター長が出席し、職員の意見・提案を施設長に伝える仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を実施している。個々の目標を設定し、自己評価し面談で職員の意見等を聞き評価しスキルアップが出来る様な環境に取り組んでいる。		

洲本中川原グループホームラガール

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の実績に伴った研修を提供し、自身のスキルアップとなる様図っている。施設内でPTによる「介助の仕方」の研修に参加し、実践している。「認知症実践研修・リーダー研修」で職員のレベルアップに繋げている。栄養士・機能訓練士・歯科医師他とチームケアを実施する取り組みも行っている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響により、同業者とクリスマス会・オレンジカフェでの交流で、情報交換が行えなかった。居宅支援事業所へは都度、情報提供の共有を図っている。入居希望の家族や介護老人保健施設からの情報提供にも対応している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本的に入居前に、本人・ご家族様は不安があります。困っている事や希望などをアセスメントをしている。本人の思いを聞き取り、生活歴を伺う中で、楽しみを持って生活が送れるような提案する事で、安心・信頼に繋げている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントで本人の情報を整理した中、家族の思をしっかり汲み取り、安心となる支援方法に繋げて行く介護計画を提示している。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家人より、相談内容を伺い、思いや状況などを確認する。グループホーム以外の介護支援サービスの情報提供も行っている。本人の「できる事」は自身で行って頂き、「できない事」を支援する様に家族に説明する様にしている。		

洲本中川原グループホームラガール

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができる事が何であるかを把握し、できる事では「食器拭きや洗濯物のたたみやテーブル拭き」等の軽作業をして頂いている。役割をもっていただく事で、お互い助け合う関係作りに努めている。できない事は支援している。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様へは毎月、ケアセンター便りを送付し、利用者様の近況や日常生活の様子を伝えている。体調不良や転倒・怪我等は、電話等で詳細報告している。家族様からの要望や依頼はできる範囲で対応している。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響により、近所の友人や知人との面談を自粛している。本来、居室でゆっくりとお話できる環境づくりに努めている。地域行事への参加や施設内での夏祭りや文化祭などで友人や馴染みの方との交流を勧めている。	家族記入の「入居前面談票」や入居後の会話の中で、馴染みの人や場所についての情報の把握に努めている。通常は、家族・親類・友人等の訪問を歓迎し、地域行事への参加、馴染みの店の利用、施設内行事での交流等で、馴染みの人や場所との関係継続を支援している。現在は、地域や施設内の行事は休止しており、面会もリモート面会をお願いしている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事などで、利用者様同士でおやつ作りなどをして、互いに話しかけ協力しながら作業できるようにしている。互いの関係作りが出来る様に、席位置に配慮する様に心掛けている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設退所される家族からの相談があり、都度必要に応じて支援に努めている。入院となっている方からの相談にも対応し、関係性を重視しながら支援に努めている。		

洲本中川原グループホームラガール

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から、困っている事や思いが聞かれた際は、意向に沿える様職員間で検討している。不安がある場合は、安心となる言葉かけや支援方法を工夫し対応している。	利用者の意向や暮らし方の希望などを、家族記入の「入居前面談票」、日々のコミュニケーション、各種聴き取りアンケート調査等から把握に努めている。把握した内容は、内容に応じて、事業所内で共有したり、委員会で検討し、支援やサービスに反映できるように取り組んでいる。把握が困難な利用者については、表情や態度から汲み取ったり、家族からの情報や意見を参考にして把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々のできる事や興味のある事など、一人一人の生活歴や情報を把握し、望む生活ができる様、努めている。音楽が好きな方へは、歌番組やDVD鑑賞を提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活で個々の様子を把握し、申し送りノートで職員同士が情報共有しチームケアに徹している。重要項目のファイルを作成し、1週間継続して周知できるようにしている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日中・夜間の、体調面・精神面・食事摂取状況をケアチェック表を作成し、介護サービス計画の参考にしている。毎月1回モニタリングで、支援方法を整え家族様の意向を確認の上へ、介護計画を作成している。	「入所前調査」で生活習慣や趣味・嗜好を把握し、「アセスメントシート」「ケアチェック表」を基に課題分析を行い、初回の「介護サービス計画書」を作成している。介護計画の内容は各フロアで「ケアプラン確認ファイル」に利用者個々の「介護サービス計画書」をファイルし、閲覧で職員に周知している。日々のサービス実施状況は「介護記録」「支援経過」に記録し、月1回グループ会議で実施しているモニタリングに活用している。定期的な介護計画の見直しは、利用者の状態に応じて、基本的に3ヶ月・6ヶ月毎に実施している。モニタリングと「ケアチェック表」での再アセスメント、担当者会議での検討、医師や管理栄養士など関係者の意見、利用者・家族の希望を反映させて、現状に即した介護計画作成に取り組んでいる。	

洲本中川原グループホームラガール

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を各種記録し、必要な連絡事項は申し送りノートで情報共有している。月1回のモニタリングで支援方法の確認を行い記録している。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人からの必要に応じたサービスに取り組んでいる。家人からの持参品の要望に対応している。遠方の家族へは、急変時の受診対応が難しい為、受診対応している。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響により、100歳体操・行事等への参加や地域のボランティアによる演奏会などを自粛している。民生委員、地区長、ボランティアの方、消防、理美容サービスなどの地域資源を継続していく。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々の血圧・体温・排泄・食事チェック等で、体調を確認し、変化等あれば都度、家人や主治医へ連絡・相談を行い、指示・指導を頂き対応している。	入居時に、利用者・家族に意向を確認し、入居前からのかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、希望に沿った受診を支援している。かかりつけ医への通院時は、基本的には家族の同行を依頼して情報提供を行っている。施設の医療連携機関の往診もあり、週1回の訪問看護師が利用者個々の健康管理を行い、医師との連携を図りながら24時間対応できる体制がある。往診・受診結果は「介護記録」「支援経過」「申し送りノート」に記録に残し、職員に周知を図り、家族と共有している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日常の状況で気づいた事を職場内の看護職員や週1回の訪問看護師等に伝えて相談している。個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。急変時などは、主治医・訪問看護等に連絡し迅速な対応を図っている。		

洲本中川原グループホームラガール

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関に情報提供している。退院時は、カンファレンスの日程調整を行い、本人と家族様との意向を確認し、退院後の介護サービス計画作成に繋げる、連携を図っている。	入院時は「入院情報提供書」で医療機関に情報提供している。通常は管理者が面会に行き、本人に安心感を与えとともに、病院関係者との情報交換に努めている。現在は面会制限があるため、主に電話で情報交換し、連携しながら早期退院に向けて支援している。退院前には、退院カンファレンスに家族とともに参加している。入院中の経過等は、「介護記録」「支援経過」「申し送りノート」に記録し、職員間で共有している。退院時には「看護サマリー」の提供を受け、介護計画を見直し、退院後の適切な支援に活かしている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に契約・重要事項・重度化した際の対応方針を説明している。状態の変化などについては、随時家族へ連絡し報告し、主治医と訪問看護と連携を行い対応を図っている。重度化や看取り支援について主治医・家族・訪問看護と支援方法について協議している。	契約時、「重度化した場合における対応に係る指針」「看取りに関する指針」に沿って利用者・家族に説明し、同意を得ている。重度化を迎えた段階で、主治医から家族とともに説明を受け、管理者が改めて事業所としてできる事・できない事を丁寧に説明している。随時、家族と話し合いを行い、家族の意向を確認して、意向に沿った支援を行っている。経過は「介護記録」「支援経過」に記録し、職員間で共有している。家族に看取りの希望があれば、「看取りの介護計画」を作成し、医療関係者と連携を密にし支援に取り組んでいる。看取りに関し、施設内研修・グループホーム会議での研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを設置している。緊急チャートを作成し、スタッフルームに掲示している。急変時対応の勉強会に参加し、緊急救命の講習を受け、状態に応じた対応ができる様訓練を行っている。		

洲本中川原グループホームラガール

自己 番号	第三 番号	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練・夜間火災訓練・土砂訓練等を年2回計画し実施している。各種の災害対応マニュアルを作成し、スタッフルームに対応チャートとファイルを設置している。常に職員は、災害時に備える訓練を実施している。	年2回、施設合同・利用者参加で夜間想定「火災総合訓練」を実施している。今年は消防署の立ち合いはなかったが、通常は年1回立ち合いのもとで指導を得ている。年間計画に沿って、「火災総合訓練」の他「土砂災害時・停電時対応」「災害時の情報連絡」も実施され、「行動計画書」「行動実施報告書」を全職員が閲覧し周知している。施設全体の連携体制とともに、施設が福祉避難所になっていることから、地域との協力体制も構築されている。災害に備えた非常食料や備品は、施設全体と各フロアで管理している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の尊厳を尊重し、プライバシー・プライドに配慮している。オムツ交換の際は、居室でドアとカーテンで見えない様に閉め切り交換を行っている。入浴は、一人で実施し共同での入浴は行わない様にしている。入居者様への気遣いを忘れず、常に言葉掛けをしてから介助している。	基本方針に「人を敬い、人に優しいプロになる」を掲げ、年間研修計画やグループ会議で継続的に学ぶ機会を設けている。職員は「虐待の芽チェックリスト」で自身を振り返り、自己評価する事で意識向上に繋げている。入浴介助時、また、排泄介助時等の声掛けやドア・カーテンの開閉に配慮し、プライバシー確保に努めている。「ラガール便り」の写真掲載は、契約時に「個人情報取り扱い」に沿って説明し、同意を得ている。個人記録ファイルは鍵付き棚に保管し、各ファイルの個人名が見えないよう工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分かりやすい言葉かけで声掛けし、入居者様の思いを聞き取りしている。重度な認知症の方へは、日ごろの表現・表情で思いを汲み取っている。		

洲本中川原グループホームラガール

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の動作一つ一つに意味があり、その思いに添える様に言葉かけでの声掛けをしている。椅子から立ち上がる動作で、トイレに行きたい行動を意味しているかを確認し、トイレ誘導を実施している。テレビ番組を見ている時、見たい番組を確認し放映する様に配慮している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった衣類を着ていただく様に、家族様に連絡し準備して頂いている。髭剃り・整髪ができる方へは、電気カミソリ機や櫛を提供し、自身で行ってもらおう。着替えの際は、自身で着ていただき、最後の整えなど介助している。同じ服にならない様、本人に確認し着る様にしている。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新型コロナウイルスの影響により、月1回の外食を自粛している。毎月、手作りパンを作り、入居者様に素材を混ぜて頂いたり、切って食べて頂いてます。週に数回、小鉢の盛りつけや野菜の皮むき等を職員と一緒にしています。食事後、食器を拭いて頂いています。	管理栄養士が季節感・行事食・イベント食を盛り込んで献立を立て、施設の厨房で調理し提供している。各フロアで炊飯と温めを行っている。利用者の好みや力が活かせるよう、現在は直接食材に触れないテーブル拭き・食器拭き等に参加できるよう支援している。月1回栄養サポート委員会で職員の検食結果や、利用者の「食事についてのアンケート」で得た嗜好や要望を踏まえて検討し、献立や調理方法に反映させている。また各フロアで週1回手作りおやつの日、月1回季節の料理の日・手作りパンの日を設け、利用者参加の食事レクリエーションを楽しんでいる。利用者個々の状況に応じた食事形態で提供し、必要時は栄養スクリーニングを実施している。	

洲本中川原グループホームラガール

自己 者 第	三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がバランスのとれたメニューを計画している。一人ひとりの状態に合わせて食事の形態を管理栄養士に相談し提供している。食事の摂取量・水分摂取量は個別に記録し、栄養状態によっては、栄養スクリーニング計画を実施し、主治医・管理栄養士からの指示・助言を頂き支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態に応じて、歯磨きや嗽を自身で出来る方はしていただいている。嗽もできない方は、口腔ウェットで拭き取っている。口腔衛生管理体制で歯科医師より、指導・指示・助言を頂き口腔ケアに取り組んでいる。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しながら声掛けやトイレ誘導を行っている。排泄の失敗やおむつの使用を減らす様取り組んでいる。	利用者個々の自立度をアセスメントし、排泄チェック表で排泄パターンや状況を把握して、日中はトイレでの排泄・自立に向けた支援を行っている。日々の申し送りやグループホーム会議で利用者個々の介助方法・排泄用品等について検討し、必要時は2人介助で安全面に留意しながら、現状に適した支援に努めている。各居室にトイレが設置されており、プライバシーに配慮した環境で、ドアやカーテンの開閉にも気配りしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排泄を促すも長期便秘な方は、主治医へ相談し排便コントロールを実施している。便秘の原因になる事を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけで、個々に応じた予防に努めている。排便チェック表で、毎日の状態を把握している。		

洲本中川原グループホームラガール

自己 者 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人様の体調や希望を取り入れた入浴を実施している。男女の入浴時間を調整し、不快な思いをしない様している。季節ごとに「菖蒲湯・ゆず湯」を提供し楽しんで頂いている。入浴時、状態に応じて2名介助で安全に入浴できる湯様にしている。	週3回の入浴を基本とし、個浴で、一人ずつ、自身のペースで入浴できるよう支援している。循環浴槽で衛生面にも配慮している。体調や気分に応じたタイミングで、拒否のある時は声かけを工夫し、同性介助の希望があれば同性で対応する等、個別の配慮を行い支援している。身体状況に応じて、ボードの活用・2人介助・シャワー浴等、安全面にも留意している。菖蒲湯やゆず湯等で季節感を採り入れ、入浴を楽しめるよう工夫している。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家族に、季節に応じた寝具を相談している。室温は個々に応じた適切な温度設定し対応している。昼寝を希望される方へは、休眠を提供している。就寝時間・起床時間が個々に違うので、その方の時間に合わせている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に処方箋ファイルを作成し、セット場所に掲示し周知している。服用時、入居者様の前で今から飲む薬を声掛けして、飲み切るまで確認し飲み忘れを防止している。薬の内容を把握し、変更があった際には、申し送りノートに記載し、連絡事項を申し送りしている。また、誤薬や飲み忘れ薬トレーを活用している。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様に、得意な作業を提供し、張り合いや喜びを感じて頂ける様にしている。食器拭き・洗濯物をたたみ・テーブル拭き等の役割を持って頂いている。新型コロナウイルスの影響により、外食・外出・買い物等の計画は自粛している。		

洲本中川原グループホームラガール

自己 番号	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響により、家族や地域の人々と協力し、100歳体操・オレンジカフェ・ひまわり会・地域行事への参加を自粛している。新型コロナウイルスが軽減するれば、外出計画で紅葉ドライブを安心・安全を図りながら予定している。	通常は毎月100歳体操・オレンジカフェ・地域ひまわり会、また、年行事の獅子舞・小学校運動会・島祭り等、地域行事に積極的に参加している。毎月の外食行事、また、初詣・お花見・紅葉ドライブ等の季節の外出を企画している。現在は、地域交流や外食は休止し、外部と交わらないよう感染防止に努めながら、少人数ずつ、季節感が感じられるドライブでの外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	お金は事務所で一括管理している。必要に応じて出金でき、一人ひとりの希望に応じたお金の使える様に支援している。受診対応時、家族様に代わって支払い対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新型コロナウイルスの影響により、家族様との面談を自粛している。リモートで10分程度話ができる対応を図っている。電話対応を都度行い、ケアセンター便りを毎月送付し、元気に過ごされている様子を伝えている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月ごとにに応じて、折り紙で花を作ったり、カレンダー作成をして頂いている。不快や混乱をまねく様な空間に配慮している。季節の壁画等は職員・入居者様と一緒に作成し飾り付けしている。ベランダは日当たり・風通しがよいので、自然な換気を行っている。クリスマス・正月・文化祭などの作品と一緒に作り掲示している。	各フロアのリビングは、大きな窓からの自然光で明るく、季節の自然風景が眺望できる。温湿度管理・換気・音量等に留意し、テーブル席・ソファ・リクライニング椅子を配置し、配席にも配慮し、一人ひとりが不快や混乱なく居心地よく過ごせるよう配慮している。利用者等と共同制作した季節の壁飾り・カレンダー等で季節感を採り入れ、「ラガール便り」で行事や日々の様子の写真を掲示している。キッチンがあり、利用者が調理・洗濯等の家事作業に参加し、生活感が感じられる。	

洲本中川原グループホームラガール

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイルームにソファーとリクライニング椅子を設置し、ゆったりとした時間が過ごせる様にしている。ダイルームでの席は、入居者様の個性に配慮し、気の合う者同士が話しをし易い配置にしている。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が作られたカレンダー・塗り絵等を居室内に飾っている。家族と一緒に写っている写真や、孫さんからのお手紙も掲示している。	各居室にトイレ・洗面台・クローゼット・ベッドが設置されている。トイレ・洗面所と生活空間はカーテンで仕切られ、消臭設備で匂いへの配慮がある。木調で落ち着いた雰囲気のある生活空間に、家族の協力を得て、椅子・テレビ・加湿器・寝具類・家族の写真等、使い慣れた物や好みの物が持ち込まれている。職員と一緒に制作した作品や、職員手作りのお誕生日や敬老の日カード等が飾られ、居心地よく過ごせるよう支援している。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の居室入り口に、自分の部屋が分かる様に飾り物やのれんを設置して。「できること」が何であるかを職員同志で話し合い、生活機能向上を目的とした計画を実施している。		